主風安富) いきJ ひそこ下 小吠人の実の 54 時 (意謀田 外干) おる ちん 覚 鏡る 刹雨 チベコ 54 時 (展子岡五) 人称ら野は砂野車の額くる計章 (計画総字) 人称ら返い各対の単特的 (機) 田渕) い多な艶含変更を入りなりを変更を変更ない。 (機) 田渕) い多な艶含変更を (機) 田渕) い多な艶含変更を (機) 田渕) いるない 7.水与用ドブノ3、樹草な用序が4.来古、3.なる小水型二葉並7本主、3.(6.4.2))業5.幹以表別。(()。2.)、2.を持ち、1.と 田山高や小野瀬健却実54時、用的数去、2.旋線、燃除お口皮骨は、1.2、2.日水や4、高距、型回後表、1.4をお口不分時、1.4を 。。6.水も、全アノコ第二4.及を吹からぶ天和業書、1.7千葉や4一サデンな線える、0.簡単二者却実果、1.1ま、6.水ちシノ4夏口登 こ〉) 予5時7が表実、さま。、1多ともこるなら用時に同时は、下が素さり物調・1線引、下のく1値もも装飾しあがイヤイがあ

。ヤアのオー当時益を返貨アノン打術広・杏房、当立るも治翁一の [・ 旅自夏泰夫、六キ。十キパとコカノを並売下丰盛る81」附金さ入44米久を十 李七ル入成、コる主動き延行主の5時31面面の第1 きコ L抄车7 套条の本 秋冬まコ」「卓然終」、ならはと許倉の音表本ならから古ま下本日ムにも

。るあれまコ面表で34枚のとえmol野直お実果のミヤキでおま。を焼ご用「~211実 コ野樹コるわけを実い赤さはから、 えまコンな種類や粉組コ蘇同とたく <野砂欝>果のミヤツヤ、 し上密含ま状織の色盤も悪の葉のミヤ、 なるがは間中の (科ミヤ)ミヤ

おの音楽素なくよぶしとうからかん

よってXJUれているとの管理がしつらくなる。

深コもとおフむ変成計構、世様材や圏掛果の軽密な的放眠。いなおらこる長丁 附を材フでよコ差かるお、よる水ち辣醂コきた砂墨が料封、たま。る水らや水充 コ線、よるなコ状後さま。る成り悪めが煮煮ずのるなりをサーム人男コ砂鶏。日 エネルスキーの上産業のは 内妣林でのい腰おには株、たいきよろこるヤ小草蜂やなと羨おでちな嫌川両

るあれ棘二倍基の葉ケ葉対ならものキャヤ

財付けの業。3名moc2~2.0輪、moa る心夏。ハマウチラブな林の壮枝小コ 別申を附がい跡ら心媚薬ブイバコが 立日がら、様い温でとれている。 ~8.15是,J型互割薬の紙円酢。&

。 シュニmoo, iち長ヶ浜円群、ノ熊ノ赤丸 いに、いるがヤイコ/ドネの千やそれ。シュの(報味)キャ 。 さべてここ 許多数か業なそものキャヤ 。ころ、J.4、続音多し5時1の各国中:来由の前各 キヤリにおしい。J.計多(静時) キやそれおしと時7 実果。されて卧を~1を亦の色染軟で エ目ペペン取い表で Salmol 至直し

> ○ことも多じ、やや湿った水力で配から、いきよろこる れち舞動ごとな光風や地掛市 いしなれい

コノ、ギズ木ホテワホ、ベバベナステホ、ーリグていや、ーリグジン: 各服 味

əsnənihə muiəy⊥:各学

(薬煙塩人本柿) 多巻恋がたけぬり吹音人>ろしさいの亦の硝香の匹の路 【炒: 甜季】

<碁登の~郷政かは科> バノブルらえぎょうれんさけわえ鮮フン介含手の人と人とまおすくいくだっるから見っ口室。 >>こり実験化さの対告をおしていくたっちまからな来る、となるかも用作コとなける管理や部斗演練がおけ継続等、いるカムころからえ難コ用質膜もできま。の田倉とがひえがあるといていの代表帯フル部に大力差離。あれちらるより日間と目を20年のインストルインスを心は関

(原来)条件でいるについて、

みなもでからなかくことをもとれずままなしょうかとなるのです。 +, 其表記6、250℃の高温によって差異が答案がでもは過去の20℃~22六末、午 五分を言れているも会に紹介できない十八とな」。中もりもいと最の直 さら寒の冬山密跡のき。ナハくひょす山中さ茶黒川南菜姓はの谷、年華

。CT技変되縁の往ぶで登黄却母>考大い回一むぶ、なう判ご膜制同ろ

キハンだコナホるえ動コサモの田勝

(安目)時の古此 東関 <史君主> よいフルちょ由野さきてかる付ける前に当ななその映田に的動葬 きょこさい サマの創里フノム酔針荒療の制動像されま古、必さるれち去郷が引トロれれて ちょいな水でい客が込むでや子やミスキ、、他さの代類素、、さきフポらえ離ご る 衣 ひ 代 対 素 知 寸 耐 コ 水 , れ 含 ま く て く 下 の 量 大 か る む 生 サ 素 / J 彰 却 二 茎 雑

。もこ断でその茎類の中計制更。る なおおこ)春笠、なを制申こり状様なる でのcmでツヤのある線形薬を地面が 長む~し触っ~し難、い返り子〉般、で 0gち是mm8~8部こりが朔。る出き突〉 md静mo4徐右是却往东の各球箱の

和Jestezuv(inemを"すいま。な話技れま。外単数 おりにでれなわでれる」。かつあり、華依我曼」、ひ らんユニバンながよこるで五年ご共同が業とか それよこるもが開い後値単数の外:来由の前を 劇跡いなちちた日いまあ。いなから見べし

で近けの子や里人, パちろ酢酔さし来煮 師。当な始墓、手士、勢稽や類の映田 る心動大国中アノム吟酢用序コルトム計 海 斡

込む(見不亦見不業) すれむむずれむ、亦皿、(ヤャぐェぐくァ)華必粧曼:各限 を一下・元 スリエリ estables al 100以:各学 が大はコ) 十いくはコ) 十いくはコ

2022年農研機構 秋のオンライン一般公開 特別冊子

農材の草花

(子恵 未未) はないなにチャトを心へを参望虫 (子豊 名編) (せみすその単独はフ芝酱組 古出師 雑畜) コままのチ いろひ みわなき の背のは (忠 雑形) 〉やれらは フで合わいへ) みなわかき (敗太 阿吉) テキャヤの史籍コ(い) 川とれいとしばれた飲ると等 <緑登の~郷政今は排>

たい体材のU窓の日表のされざてもできます。 実実なし認識。(づくう) 耳者 Litのさい感染力で、なかい情かのようは、計画学品、もにある方達等サージをからからあった。 。
なり毎年日後ライのさんきが最、たらみた用なコピンな事業、化生べ番、油種、原業・フ楽士され計判な(しづく5) 干山客」は 。
ないました。
。
ないました。
な

。は十7階いよるかと1く」の概奏大きな無針の独立が敦煌。六丿書丿 服奏き(ヒーモぐゃごち)ーナスマC面 , TJB広き勤弊の時の路後治前 遠心大分類で合自、山屋れモイスメ・モ・エジれEジのストスコ半8491 東名十重雷汕乗飛、ゴインコき実帯のミヨキャネルアルーへ)リノーさご

。ハヤや出れ点頭や縁の色業黒コ茎、、矢尘れ手式水罐コ面莢の伸び落けよきチャ 下下下心味の美采 、おとチャトでいの呼動が解 、ゴま 。 vろ小さしおさりの聞いの際氏 、入却もいよミチヤヤヤも幻災器の晦〉濃い実界のミチヤヤの蘇来卉 <鰤以礫>

。水ははい水の原。天米ごしいち光水がから天への本と

徳寺でかない育まできチャヤヤイとなるでは、 できる。 また。 また、 関北舞以前に地際近くを刈り取れば、 種子生産を抑制できる。 には合義の5歳計科局、され、5な5要な心系領域で現ではおう」世単球、かれと こで表している。 京都の本金銀料であることなり高さ品は、山味野の脚は陶、中温を兼中受担、瀬道を見る。 方本のでは、京本台が代別が進作。 たまらい

點式, 5.生以澄液(陳のmm8~4, 2巻 。下出考奖なしましさ2の間2なき大コ .2~2占長訂実果 。されい参 果の数多、JHS和3と7度51編集ご は、シ太」立直お孝。>へるさう」等 考虑各年成习朴全。附那小保生中-

。めれれられ些大いるされきキヤヤ大の野来 各本部、JUSかきとされた脚の独装:来由の前を

既, ため地の縁, 坤, 南風地, 島科県など

(第口御歴) 王の草のろころる皆目の土 のスエバチが静か日おいる ア、めまいなどの副作用がひどく,現在では終われることはありません。 新五血、めよい起が動毒、やよりもいて」用動コゼムな底の惑宵が最近 赵玉丁へゆ、1 あい困朴與麻魚域公園朴特融ののよい犯別囲朴、15ま会 かりまかあれるの記録には、からのアルカロイドに似た育喜始質が 。いなまびパゆ〉谿コでよのや大しやや字葉小 8.51葉のワマキスラヤ。みれる見なヤマキスラヤノち大や国一ちmo4(3/4)が4.51が181 劉半の当な縁林(7高の)製器自し少でき、沿当韓国の里人却や大(やく <離別隊> 升曲 I 0.4选率I ふるもさみ連入されま。 お祈や 4四英ななや様

>よい(さ)が麻酔の味もながらする。 さればるすとかしまのましていましている。 着けな鉄旭部。されい会実果の活油 あるれま)並アいこよい「マお干癬さす 草] みならご † 出多辨序の 色樹黄 : 来由の前 ネ

コソンの場所、いない品も行きまんのいち人手、ようであたとことえました個様学戦 コ音楽、他式の毒帯、「コユナ、インコリンない」と専門、アのが最初る大主コルベヤで、「はないま」に学者が、ルさい経過を発現り一部次然日、(他の機構作すい)で

4国草のmoE~2至2/3光素 。636/0/8 状席、J生五紅葉。&ろ去たJ液新県の 水離、4日おこ4茎5裏葉。む込れで図っ 念む31批園梅今職、次近夜金而緑な光明 答下多端や此水紙、六ま。7,45元61.01ま **台崎黄56社会業。空中灯業, 75帯多** 30~80cmほどで, 全体は来らかく日色 別簿は 。それら見ごさな手主, 起ひ, 後 **ち語。単平独る下冬郷フ兵土東**江林

(支目)例の式账 東関 <史語型>

菜国白,草ぐAや,ち〉なコ:各限 黄**の草**

suism muinobilsAAJ: 各举

③やまおり

イルをおけ、花が終わると細見いて

154) 4×144

国金/網多攤杯: 市代

·---- ③ やまおり

この冊子の他の記事はこちらのページをご覧下さい。 https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/genre/kusabana.html

農村工学研究部門メールマガジン

2021年7月 2021年4月 2020年12月 2020年10月 2020年8月 年最後に紹介する草花は"善良で陽気"な外来種 ~ウラジロチチコグ 2019年12月 2019年10月 J田の宝もの探しにはうってつけの小さな絶滅危惧種 ミズマツバ っても大きそうな名前ですが、実際は地べたに伸びる小さな草花です 〜コニシキ 2019年8月 2019年6月 2018年11月 2018年9月 2018年7月 2018年5月 2017年12月 2017#10 H 2017年8月

農村工学研究部門メールマガジン 購読申込はこちら https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/index.html



農村にみられるトゲが痛い・毒の草花 編

この冊子は、農村工学研究部門メールマガジンから一部抜粋しています。



農村工学研究部門

----- ② はさみ

タガラシ (キンポウゲ科) 学名: Ranunculus sceleratus

別名: コンペートー, ウシゼリ, タゼリ, タネツケバナ

収穫後の水田で芽生え, 根出葉で

越冬し、翌春に花を咲かす越年生。根

出葉は下部の葉は光沢があり、掌状 に切れ込むが、茎の上部の葉は3深

春耕前の湿田や畦,湿っぽい休耕田, また排水路や絶えず水の流れる用水路、 8。街中の水路で見かけることもある。

裂で幅はせまい。茎は中空で柔らか 直立する。葉腋から花茎を伸ばし、光 名前の由来: 水田に見られ、確むと辛みがあるので、「田茶子」との読をしい合作花をつける。 花 ので、「田茶子」との読と、収量の少ない湿田に多いことから「田枯らし」との両説がある。別名のコン ペートーは、果実が金平糖を想起させることから

ムギなどの冬作を行わない水田、とくに冬から春にかけて湛水状態となるような 湿田では、全面に繁茂し、春耕や代攝きの障害となることがある。かつては、山 間部の貧栄養の湿田に多かったが、最近では平野部の富栄養~中栄養の水質 下に多くみられるようになった。冬作時にも、水はけの悪い部分に多発することが あり、強害草となる。木田期間中にも残る個体が見られるが、障害とはならない

<生活史> 関東 地方の例(目安) 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月12月 120

〈類似種〉関東以西のやや乾いた湿地には、絶滅危惧種のヒキノカサが生えるが、 葉に光沢がなく茎に毛が多い。また、タガラシと同様の環境に見られるキツネノボタン も、葉に光沢がなく、集合果は球形で種子の先の嘴(くちばし)は長く曲がる。

全年にプロトアネモニンというキンボウゲの仲同に共通する有毒秘質を

含みますが、中国やインドでは、ヘビに咬まれたときの薬として利用され ることもあるようです。

有義成分を含む番植物で、食べると口内炎や胃腸炎を起こす。また、肌の弱い人では、寒や茎の汁が皮膚に付着するとかい れを起こすことがある。しかし、インドなどでは、薬用として薬や果実などを利尿や強壮剤に利用する。また、便槽などのウジ虫の

<俳句や短歌への登場>

田芥子や山の窪地に家二軒(塩崎瓈恵)

分布: 全国

ラヌンルス ヤボニノス **ウマノアシガタ** (キンボウゲ 科) *学名:Ranunculus japonicus*

別名: キンポウゲ(金鳳花), 駒の脚形, 瘧(オコリ)落とし, 毛莨

日当たりの良い林緑や路傍,水田や畑 の畦,草地,ため池の堤防などにみられ やや乾いた場所を好む。少し山が

形に見立てたという。また、光を浴びて花びらが 金色に輝くように見えることから、金鳳花。

れ込む。花は径1.5~2cmの黄色の5 名前の由来: 3深裂する葉を馬の輪(ひづめ)の 形に見立てたという。また、光を恰びて花びらが 金色に輝くように見えることから、企風花。 乗まって金半糖状となる。

多年生植物で、中空の茎が直立し

畦や水路沿い、路傍などにみられるが、水田内や畑内部に発生することは ほとんどない。しかし、有毒植物のため、放牧地では害草となる。また、家畜の毎 料に混ざらないように注意する必要がある。家畜への中毒症状は、口内の腫脹 胃腸炎、疝通、下痢など。重症となると,呼吸困難をきたし死に至ることもある。 <生活史> 関東 地方の例(目安)

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月12月 生育期 開ル・

葉は線形とならないことなとで区別できる。

<一言うんちく>

馬のひづめに柔の形状が似ていることから、「馬の足形」とされます とてもそのようには見えません。一説には、「鳥(カラス)」の字を 「馬」と読み違えたのではないかともされています。確かに、3深裂の景 は、カラスの足形としたほうが、しっくりときますね。



全ボが有帯植物なので食用とはならない。しかし、民間葉として、生汁を米などに練り込み、リュウマチや催痛などの外用とすることもある。また、中国ではマラリヤや頭痛の薬としても利用されているようだ。 花が大型できれいなため、観賞用として品種改良も行われ、八重咲きのものを特にキンポウゲと呼ぶ。

<俳句や短歌への登場>

Bをううるころにて畦に黄の花の金鳳花など咲くふるさとは (佐藤佐太郎) 起かに洋傘(かさ)の尖もでうち散らす毛莨(きんぼうげ)こそ春はかなしき (北原白秋) 、薬庫へ径ひとすじぢに金順花(堀内雄之)









